

作新学院大学

・作新学院大学女子短期大学部

図書館

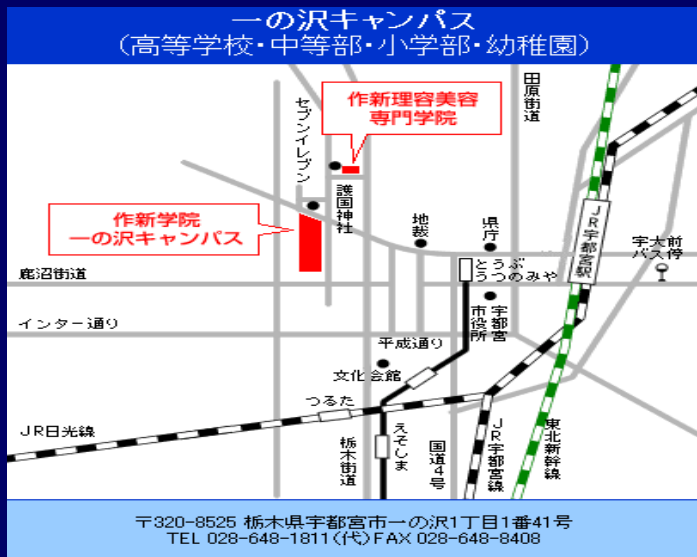
【情報リテラシー教育事例報告】



2008.11.20

学術情報リテラシー教育
担当者研修

作新学院について



【一の沢キャンパス】
高等学校・中等部・小学部・幼稚園

高等学校生徒数約5,800人**大規模校**
宇都宮市内ほぼ中央部に設置



【清原キャンパス】
大学・短期大学部 設置

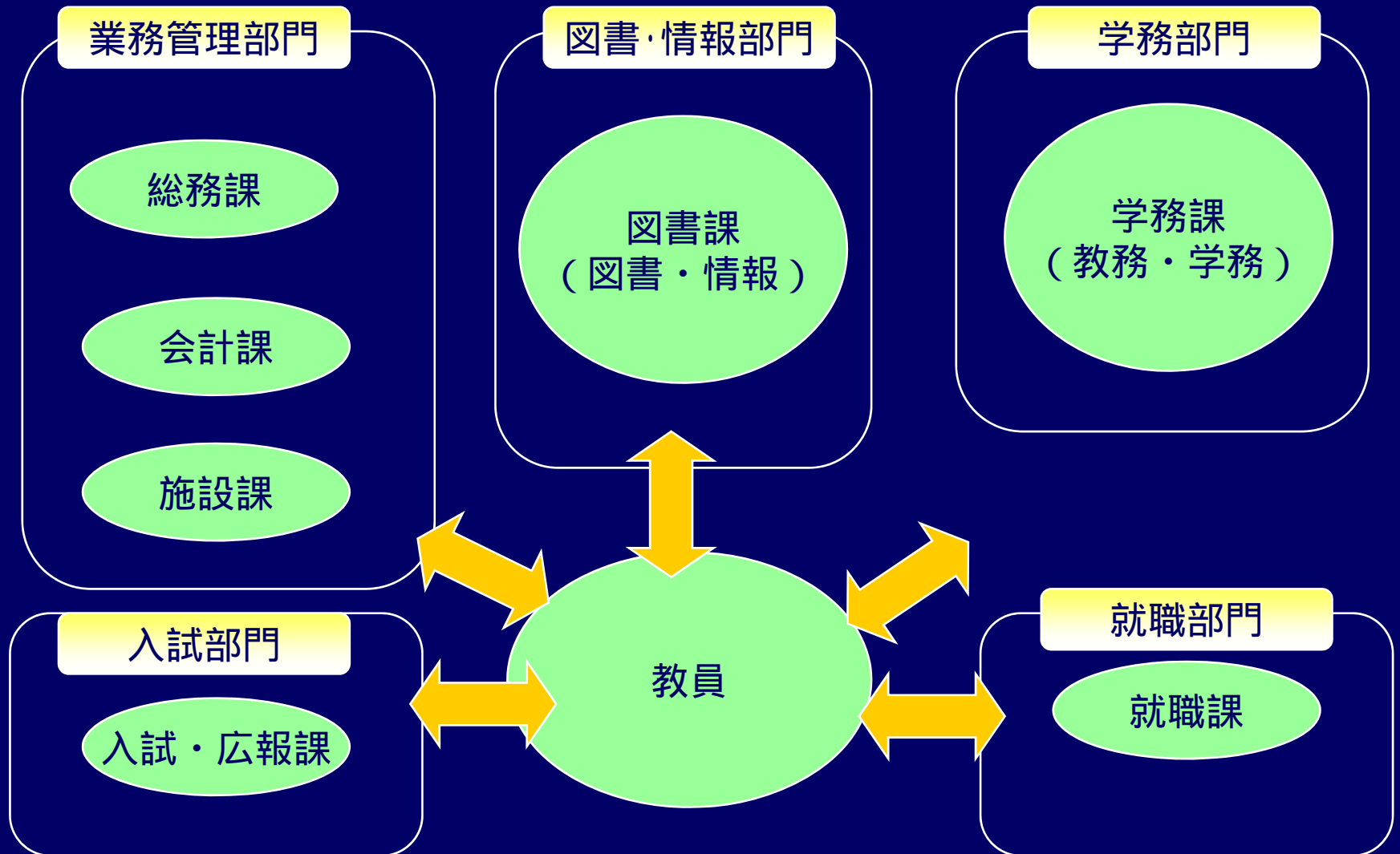
学生数約1,600人**小規模大学**
宇都宮市街地から離れた場所に設置
近隣に工業団地がある。

作新学院大学の概要と規模

船田教育会	作新学院大学
設立	1967年「作新学院女子短期大学」開学 1989年「作新学院大学」開学
学生在籍数	約1,560名
大学院 (経営・心理学研究)	約60名
3学部 (経営・総合政策・人間文化)	約1,300名
女子短期大学部 (幼児教育科)	約200名
専任教員数	約80名 (客員教授等除く)
職員数	約55名

平成20年5月1日現在

作新学院大学事務局組織



作新学院大学事務局図書課概要

作新学院大学事務局図書課	
正職員数	5名 + 2名 (内1名産休中)
派遣・委託等	3名
学生アルバイト(登録者数)	16名
蔵書数	21万冊
年間図書受入冊数	約1万冊
年間製本雑誌	約1400冊
利用者対象	学生・教員・卒業生・一般

2008年より、情報センターと業務統合。

図書館利用者サービスの変化とそのねらい

平成20年度

事例一覧 【 ねらい： 図書館を身近に感じてもらう 】

広報戦略

図書館入口に飲食可能なスペースを設置
図書館ニュースの発行
学祭への参加
DVD上映会
アドベンチャーゲームの導入
オープンキャンパスの参加
既存の部屋をオープンスペースへ改善
「ふれあいROOM」設置
メーリングリストの活用

教員との連携

教職員向けデータベース講習会
データベースに関するお知らせメール
ゼミのコマを利用して検索指導等実施
図書館利用アンケートの実施
今後公開講座で図書館利用教育
(H21年度予定)

地域開放

(継続)
地域への開放 (PR活動)
インターンシップの受入 (中高生)

図書館利用者サービスの変化（事例）

広報戦略

- 図書館入口に飲食可能な休憩スペースを設置
- 図書館ニュースの発行SAKUらいぶ(月1回)
- 学祭への参加
- DVD上映会
- アドベンチャーゲームの導入
- オープンキャンパスの参加
- 既存の部屋をオープンスペースへ改善
- 「ふれあいROOM」設置
- 新着図書をメーリングリストでお知らせ
- 入口にカバーでオススメ図書案内
- 新聞読書特集を掲示

図書館ニュース



休憩スペース



ふれあいROOM



図書館利用者サービスの変化とその効果

広報戦略

図書館入口に飲食可能なスペースを設置
図書館ニュースの発行「SAKUらいぶ」
学祭への参加
オープンキャンパスの参加
既存の部屋をオープンスペースへ改善
「ふれあいROOM」設置

飲食物持込の減少

学生のコミュニケーション増加

図書館のイメージUP

館内資料の有効活用

館内スペースの有効活用

図書館利用者サービスの変化とその効果

広報戦略

DVD上映会
アドベンチャーゲーム等の導入
新着図書メーリングリストでお知らせ
入口にカバーでオススメ図書案内

オススメ図書



図書館に埋もれた資料や情報に気付かせる

情報検索技術をゲーム感覚で身につかせる

図書館利用者サービスの変化とその効果

教員との連携

教職員向けデータベース講習会
データベースに関するお知らせメール
ゼミのコマを利用して検索指導等実施
図書館利用アンケートの実施

今後公開講座で図書館利用教育
(H21年度予定)



教員の場合

資料

研究室にある
データベースについては興味がある。
図書館へ聞きにくる

学生を図書館へ連れてきてくれる

図書館利用者サービスの変化とその効果

地域開放

(継続)

地域への開放 (広報誌の配布)

地域住民への開放 (PR活動)

インターンシップの受入 (中高生)

大学のイメージUP

利用者の目線に合わせる訓練
常に初心に戻る

インターンシップ



図書館利用者教育の変化

比較: 過去3年間 利用者へのサービスの変化

平成18年度以前

図書館の説明 5分
ビデオ2本
大学図書館について 20分
論文・レポート作成方法 20分
OPACの検索方法 15分
データベースの説明 10分

平成19年度

図書館の説明 5分
ビデオ2本
大学図書館について 20分
論文・レポート作成方法 20分
OPACの検索方法 25分

平成20年度

図書館の説明 5分
ビデオ
大学図書館について 20分
OPACの検索方法 (キーワード検索) 25分
図書館アドベンチャー 30分

平成20年度図書館利用教育について

新入生図書館利用教育実施について

- ・ **対象者**

新入生 実施1回の人数 約50人
(短期大学部別途実施最大100人)

- ・ **実施期間**

2008年5月～6月

- ・ **場所**

多目的ホール・図書館内

- ・ **テーマ**

図書館の基本的な利用方法説明と検索方法について

- ・ **内容**

図書館の説明	5分
ビデオ	
大学図書館について	20分
OPACの検索方法 (キーワード検索)	25分
図書館アドベンチャー	30分

- ・ **担当者**

図書館職員

新入生図書館利用教育日程について (例)

月 日	曜日	時間	授業名	クラス	受講者数
6 月 2 日	月	3	基礎ゼミナール	E	23
			基礎ゼミナール	F	10
		4	文書力演習 1	4	10
			文書力演習 1	5	4
6 月 4 日	水	1	基礎ゼミナール	D	23
6 月 5 日	木	2	基礎ゼミナール	B	23
			基礎ゼミナール	C	23
		3	文書力演習 1	1	12
			文書力演習 2	2	11
		4	基礎演習	D	10
			基礎演習	E	10
基礎演習	G	10			
6 月 6 日	金	2	基礎ゼミナール	A	25
		4	文書力演習 1	3	9
			基礎演習	A	11
			基礎演習	B	10
			基礎演習	C	10
基礎演習	F	10			

タイムテーブル

平成20年度図書館利用教育
タイムテーブル

実施場所：図書館隣接多目的ホール

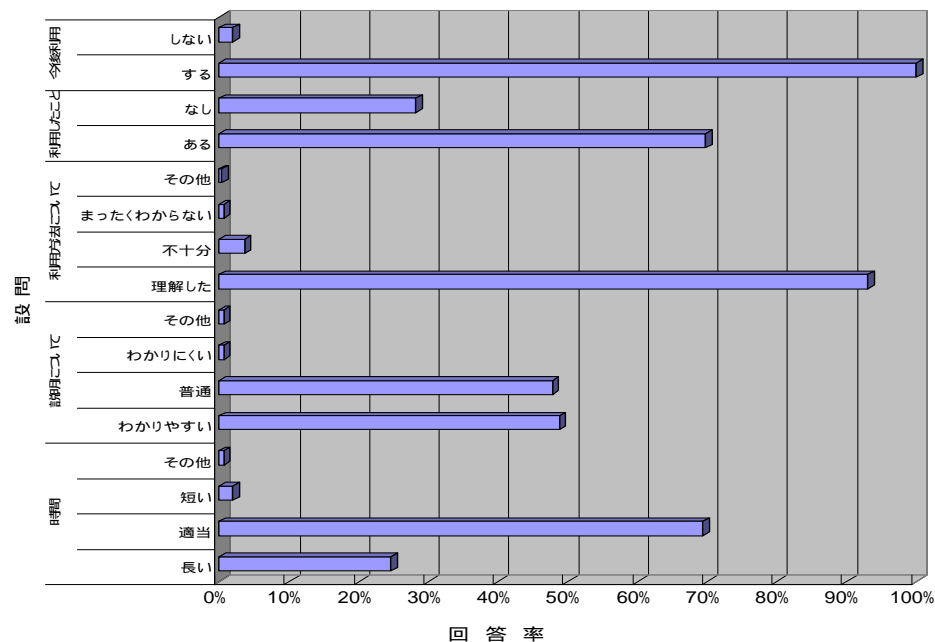
1限	2限	3限	4限	5限	内容	所要時間
9:00	10:40	13:00	14:40	16:20		
20分間で話をまとめる					あいさつ パワーポイント	20分間
9:20	11:00	13:20	15:00	16:40	ビデオ	30分間
9:50	11:30	13:50	15:30	17:10	ビデオ終了	
					図書館へ移動	
10:00	11:40	14:00	15:40	17:20	図書館でゲーム 2問	30分間
10:30	12:10	14:30	16:10	17:50	アンケート記入 終了	

アンケートの実施

ゲーム問題用紙の裏に
アンケートを印刷する。

回答用紙 = 出欠確認票

平成20年度アンケート結果 図書館利用教育アンケート



必ずアンケートの回答等は課内で振り返ってみる

その他図書館利用教育事例

1

教職員向け電子ジャーナル利用説明会

2

学生向けデータベース利用説明
ゼミ形式：90分1コマ（教員の依頼による）

3

学生向け検索方法個別指導
（教員依頼の場合）
（本人希望による）

その他図書館利用教育事例とその効果

1

教職員向け電子ジャーナル利用説明会



図書館からのお知らせを見ていることを知った
データベースに不慣れなことを知った
後日の問い合わせがある

その他図書館利用教育事例とその効果

2

学生向けデータベース利用説明

ゼミ形式：90分1コマ（教員の依頼による）



実際に検索するほうが身近に感じる
テーマも身近なもの
1回では伝えきれない（複数回時にわけたほうがいい）

その他図書館利用教育事例とその効果

3

学生向け検索方法個別指導
(教員依頼の場合)
(本人希望による)



より詳しい説明ができる
1対1の時はノートにまじめにメモをしている
個別にテーマを聞きだせる
指導しやすい

図書館利用教育問題点

- ・ データベース検索を一斉に出来る環境整備が必要
- ・ 利用率が低い為、職員内でも実は不安が多い
マニュアル化が必要
- ・ 学生の目線に立つことを忘れない
(レベルの低下の現実)
- ・ レファレンス時インタビューの徹底

図書館利用サービス・教育等による効果

入学時4月～7月にかけての図書館利用率推移

月利用者数 / 学生数



図書館利用教育を始めるにあたって

大学と高校の違い

高校 教科書
答えがある 暗記

大学 教科書は参考書
答えを自分で見つける
研究すること

大学図書館の有効活用について

図書館資料の有効活用

インターネットの有効活用

著作権についての知識の取得

生涯にわたって役に立つことを知らせる

図書館利用教育実施のポイント

ポイント1

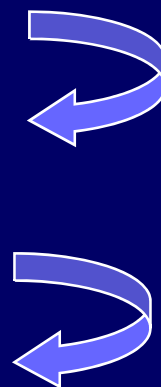
- 対象者が誰かを明確にする。
- 利用者の生態を意識する。
- 目線は利用者
- 目標を絞り込む（範囲を広げすぎない）
- 印象付け・仕掛けづくり

図書館利用教育実施のポイント

ポイント2



- 資料は文字を多くしない。
- キャラクターの活用
- 図や写真を使用する。
- 色の使い方



図書館利用教育実施のポイント

ポイント3

- 聞き手の顔を見て話す。たまに話かける。
- 専門用語は使用禁止
(身近なものに置き換える)
- 声は大きく。速度を調整する。

図書館利用教育今後の課題

課題 1

- 広報活動

PR方法の工夫

館内の配置換え、掲示方法を変えるだけでも効果あり

図書館利用教育今後の課題

課題 2

- 企画立案

状況に合わせてできるものから実践してみる
出来ないことはない。不可能なことはない。

図書館利用教育今後の課題

課題 3

- 職員同士の意思確認と統一
課内でも情報共有
マニュアル化

図書館利用教育今後の課題

課題 4

- 教職員との連携

他部局の職員や教員の意見をリサーチ
手間を惜しまない

図書館だけでなく学校全体をまきこむ

図書館利用教育今後の課題

課題 5

- 評価（振り返り）
必ずアンケート等をとる。
改善点を見つけ出す。
結果は公開する。

図書館利用教育今後の課題

課題 6

- 改善点を次年度につなげる。
現状に満足しない
常に更新する気持ち
（新企画例案）
施設内コーナーに名前をつける
利用者への特典やポイント制など

これからの図書館利用教育について

まとめ

目標をしっかりとてる

立てた目標を見失わない

学生が自主的に学べる環境づくり

アナログとデジタルの融合

もっと視野を広げる

今後の目標

利用者の

反応・反響を楽しむ

提案を取り入れる

生態を把握する

反応を“仕事のやりがい”へ

利用者を怖がらない（でも自己満足しない）

図書館司書のプライドは捨てよう

よき伝統を守る・切り捨てるの勇気

利用者への学びの場の提供を！！

The top of the slide features five circles in a horizontal row. From left to right, the first, third, and fifth circles are solid dark blue, while the second and fourth circles are hollow with a dark blue outline.

ご清聴ありがとうございました。

作新学院大学 事務局 図書課
図書係
和久晶子